

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
1	質の高い教育の実行	<p>1 これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。</p> <p>2 課題解決型の研究に取組み、主体的に学ぶ力を育てている。</p> <p>3 1年次は全寮制とし、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育み、人間力を身につけている。</p> <p>4 農林業の国際化や技術・情報の高度化、農業の6次産業化に対応できる技術の習得や組織活動等のマネジメント能力を養成するため、実践学習を強化し取組み、経営力を身につけている。</p>	<p>・学生にとって分かりやすい授業の実施</p>	<p>・授業評価に基づく授業方法の改善 R5：教養科目・共通科目の授業アンケート（R4：コース専門科目）</p> <p>・よりよい授業のための職員の資質向上（職場研修、派遣研修）</p> <p>・DXを活用した、効率的でより効果が高い指導方法の推進</p>	<p>・前期は7月に20科目で実施。「おおむね満足以上」が85%</p> <p>・後期は1～2月に26科目で実施。「おおむね満足以上」が92%</p> <p>・各講師に結果を渡し、評価が低い項目については学生の意見を反映させるなど指導を行い、授業の質の向上に努めた。また経営企画会議、コース長・係長会議で結果の報告、分析を行った</p> <p>・授業のすすめ方研修を実施（4/20：新任指導職員等15名）</p> <p>・新規採用職員研修（5～8月：2名）</p> <p>・刈り払い機安全研修（5/28：10名、6/1：6名）</p> <p>・ミライの農業をつくる指導者向け研修（Web）の実施（農水省） 8～9月：新規採用職員2名参加</p> <p>・関東農政局みどりの食料システム戦略勉強会(7/28, 8/29:2名)</p> <p>・今年度の新任指導職員等を対象に、アクティブラーニングの授業参観実施（10～1月:11名）</p>	<p>・授業評価に基づく授業方法の改善 R6：専門科目の授業アンケート コース専門科目：前期15科目（7月）、後期18科目（1～2月）実施 授業改善に役立てるため担当講師に結果報告職員会議で結果の分析と対策を検討</p> <p>・職員のスキルアップを目的に来年も職員研修を計画的に実施を検討</p> <p>・農水省などのオンライン研修等の実施</p> <p>・新任指導職員対象に、授業のすすめ方研修を4月に、アクティブラーニングの授業参観については前期に実施を検討</p>	<p>・先生の授業の質を上げることは大切である 授業のすすめ方研修は、誰が教えているか？ →清水教授が4月の最初に研修しています その後コースの先輩先生の授業参観を行っています</p>	
		<p>5 国際水準GAPを教育カリキュラムに導入し、農場等での実習を通して、農業生産技術に加え国際感覚を兼ね備えた担い手を育成している。</p> <p>6 平成31年3月に、新たな施設園芸経営の形を創造する拠点として「ぐんまイノベーションファーム」が農林大に設置された。IoTやICT、DXを活用した最先端の技術を授業に取り入れることにより、地域農業を牽引する優れた経営者の育成をめざすとともに、地域に開かれた実証モデル施設として最先端技術を発信している。</p> <p>7 令和5年3月2日に公表された「群馬県みどりの食料システム基本計画」に基づき、県では、持続可能な農業（特に有機栽培）の取組を強化し、有機栽培に取組む生産者を増加させるため、社会人コース「有機農業専攻」を新設することとした。</p>	<p>・学生がやる気と自信の持てる教育</p>	<p>・主体的に学ぶ力を育てる アクティブラーニング型の授業導入</p> <p>・課題研究・意見発表等への取組の強化（全国大会出場を目指す）</p> <p>・国際水準のGAPを実践 各コースで農林大GAPの内部審査を実施</p> <p>・危険予知訓練の実施</p>	<p>・授業のすすめ方研修を実施（4/20：新任指導職員等15名）（再掲）</p> <p>・今年度の新任指導職員等を対象に、アクティブラーニングの授業参観実施（10～1月:11名）（再掲）</p> <p>・課題研究計画検討会(2～6月)、中間検討会(7～10月)</p> <p>・校内課題研究発表会 11/28～29</p> <p>・代表課題研究発表会（群馬会館） 12/14</p> <p>・関東ブロックプロジェクト発表会（千葉県） 1/18～19 プロジェクト発表において 優良賞受賞1名 オンライン配信による発表会を学生、職員が試聴</p> <p>・全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会 2/7～2/9 1年生4名が参加</p> <p>・意見発表の取組 ①キャリアデザインIで作文・小論文指導（4回） ②夏休みに1人1課題の作文を作成し、これをもとに、意見発表指導</p> <p>・農水省「みどり戦略学生チャレンジ」に参加（農食コース2年4名）研究成果ポスターと動画が、関東農政局HPに掲載(11月～)高崎市役所に展示(11/15～20)、準グランプリ賞を受賞(2/20)</p> <p>・令和5年度森林・林業技術等交流発表会 スライド発表にて奨励賞を受賞(2/15 森林コース2年1名)</p> <p>・野菜コース露地野菜専攻で、ASIAGAPの更新審査を受検（9/27）大きな指摘もなく、更新された（10/25）他コースについても、農林大GAPに基づいた内部審査を実施(2/29～3/14)</p> <p>・家畜防疫・衛生指導事業にかかる農場HACCP研修会受講(1/25:職員1名)</p> <p>・森林コースで実習中に学生が鉈で指を切るけがが発生（4/18） コースでは、防護用具の必要性などを改めて注意喚起した</p> <p>・農作業安全月間等に合わせ、職員会議で、ヒヤリハット事例集をもとに注意喚起(10/2)</p> <p>・林業労働安全リスクアセスメントの講義(12/11：森林コース1年12名)</p>	<p>・新任指導職員対象に、授業のすすめ方研修を4月に、アクティブラーニングの授業参観実施を10～1月に実施(再掲)</p> <p>・課題研究と意見発表 来年度も計画的な指導により全国大会を目指す。 校内課題研究発表会（11/26・27） 代表課題研究発表会（12/12：産業技術センター） 関東ブロックプロジェクト発表会（1/16・17：群馬県 社会福祉総合センター） 全国プロジェクト発表会（2月未定）</p> <p>・計画的に指導</p> <p>・R6年度も2年生が参加予定</p> <p>・R6年度も発表会に参加予定</p> <p>・GAP 野菜コース露地野菜専攻でASIAGAP更新審査実施 他コースについても、農林大GAPに基づいた内部審査を行う 課題研究で取組むなどして、学生、職員の意識を高める</p> <p>・今後も農作業安全月間等に合わせ、職員会議で事例検討</p>	<p>・全国に進めなかった理由は？(森村) →内容、発表態度とも他県と遜色ないと思われました ただ評価では「課題選定・実施方法」で点が伸びていませんでした</p> <p>・代表課題研究発表会を見て、唐突に試験の内容に入ってしまった印象がある。課題選定の理由や背景を詳しく述べるとよい(澁谷) →導入部については、コース長会議等を通じて学生への指導につなげます</p>	

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
1	質の高い教育の実行		・学生がやる気と自信の持てる教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業の実践</li> <li>・D X活用による効率的な農業の実践</li> <li>・6次産業化学習の強化 販売学習、地域等と連携した商品開発、オリジナルパッケージ作成</li> <li>・有機農業の担い手育成 ①農水省「みどり戦略学生チャレンジ」参加 ②農林大職員全員が有機JAS講習を受講 ③令和6年度に社会人コース「有機農業専攻」を新設にむけた準備 ④「有機農業論」の講義を開始 ⑤有機栽培者等による講演会を実施</li> <li>・プレゼンテーション能力の向上 1分間スピーチ</li> <li>・基礎学力向上 実習等で必要な学び直しの補講の実施</li> <li>・学業優秀者、生活態度優秀者等の表彰、各賞受賞者、資格取得者の紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農食コースでは、地域営農専攻25名がK S A S（WEB上の営農管理システム）を用いて毎日の栽培日誌を記録している</li> <li>・ドローン操作研修（7/13～14：農食コース2年生 22名） （11/16：森林コース2年生 12名 県新採職員(林業) 13名）</li> <li>・GPSアプリを利用してマップを作成する課題研究(森林 1名)</li> <li>・ICTの取組みの一環として、高性能林業機械のシミュレータを用いた、操作技能研修（7/3～25、9/1～29、2/5～19）：森林コース1、2年生 24名）</li> <li>・「ミライの農業をつくるオンライン講座」にて、環境と農業についての講義をオンライン視聴（2/25 野菜コース2年生 21名）</li> <li>・6次産業化学習の強化 ①イオン販売学習(6/24、10/12、12/8) ②花と野菜苗の販売会（5/12） ③サツマイモ苗生産販売(5～6月) ④外部講師の指導により、農食コース学生が「そばづくリスト検定」を受験(12/3)し、二段4名、初段9名合格 ⑤下仁田納豆：南都社長と農林大卒業生社員による特別講演会（2/22：1年生） ⑥オリジナルパッケージを検討し次年度完成予定（農食コース）</li> <li>・有機農業の担い手育成 ①農食コース2年生4人が参加。農水省職員による勉強会「有機農業の現状」（7/12：農食コース2年生 22名） 研究成果ポスターと動画が、関東農政局HPに掲載(11月～)高崎市役所に展示(11/15～20)、準グランプリ賞を受賞(2/20)（再掲） ②本年度は森林コースを含む農林大職員全員(41名)が有機JAS講習を受講 ③新農業人フェアに参加し、学生募集(7/15：相談者12名、9/30：相談者14名) ④「有機農業論」を後期に開始(10/4～：野菜コース、農食コース、社会人コースの1年)。有機栽培者の、吉田恭一氏(12/6)、和田裕之氏(12/13)、後藤明宏氏(12/20)が講義 ⑤ポケットマルシェ運営代表高橋博之氏らによる「有機野菜の販売について」講演会(10/19：2年生 52名) ⑥有機ほ場に対する「転換期間中有機農産物」の有機JAS認証を申請(10/27)、取得(1/29) 機械・施設整備やほ場整備を進める ⑦社会人コース「有機農業専攻」の一般入校試験（前期）において定員5名のところ8名の応募があり、6名の入学を予定</li> <li>・学年集会時に実施（7/25：1・2年生、12/26、2/22：1年生）全校集会時に実施 キャリアデザインⅠの授業で実施(6/14、21：1年生)</li> <li>・計算力確認テスト実施（4/18、19：1年生55名、2年生74名 9/25：1年生53名、2年生70名） 回答率の低かった問題を重点的に各コースごとに指導</li> <li>・英語Ⅰ（4～7月 12回：希望者18名）</li> <li>・英語Ⅱ（10～1月 12回：希望者3名）</li> <li>・学年集会、全校集会で実施（9/4、12/26、2/22：1、2年 3/19：1年生、3/22：2年生）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先端技術の知識・技術習得を計画的に進める</li> <li>・イノベーションファームの施設受入れにより、環境制御技術の県内農家への普及の一翼を担う また、全コースを対象に視察を受入れ、スマート農業への理解を深めてもらう</li> <li>・販売学習 ①イオン高崎店での直売会（3回） ②花と野菜苗の販売会（5/上） ③サツマイモ苗生産については、継続して実施 ④そばづくリスト検定合格に向けた技術指導 ⑤6次産業実践者による講演会(2月) ⑥オリジナルパッケージを完成（農食コース）</li> <li>・有機農業の担い手育成 ①次年度も参加予定 ②有機農業論の講義で有機JAS講習を受講：転入職員全員、野菜コース、農食コース、社会人コースの1年 ③新農業人フェアに参加し、学生募集(7月、9月) ④「循環型農業論」を前期に開始(4/15～：野菜コース、花き・果樹コース、酪肉コース、農食コース、社会人コースの1年)。有機栽培者の堀込理氏・聖氏の講義および、農水省の出張講義3回を予定 ⑤次年度も講演会を実施 ⑥有機ほ場に対する「有機農産物」の有機JAS認証取得に取り組む</li> <li>・継続して実施</li> <li>・基礎学力向上に向けたテスト、講義を継続して実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローン操作研修は、野菜コースなど他のコースでも実施してほしい 他校の情報を収集し、学生が興味のある研修をとりいれるとよい（中嶋）</li> <li>→本年度、本校でも実習用のドローンを購入しました 今後、各コースと調整していきます 学生の興味や関心のあることから把握していきます</li> </ul>	

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
1	質の高い教育の実行		・安心・充実した学校生活	・寮生活を通して規律、協調、思いやりの精神を育む教育の実践 ・心の健康相談の実施	・スクールカウンセラーによる支援 (22日 延べ45組) ・1、2年生を対象に「教育相談のための総合調査(メンタル検査)」を実施(4月)し、個別対応を行っている ・コースごとに新入生面談を実施(5月) ・登校時における教育棟玄関での声かけ ・生活指導職員による登校時の声かけ ・職員からの積極的な声かけ		・次年度も22日実施予定 ・学生への対応を継続	
			・地域、外部機関との連携	・地域貢献等 ①箕輪城周辺の環境整備  ②地元小学校との交流 ③地元マルシェへの出店 ④子ども食堂との連携による食育  ・農業技術センターとの連携による害虫発生予察情報(果樹関係)の提供 ・イノベーションファームの活用 農業技術センターとの連携による最新技術の実証と普及  ・農業事務所との連携    ・総合教育センターとの連携 ・全国農業大学校協議会との連携 ・JA教育研究会との連携 ・就農者育成推進連絡協議会との連携  ・森林組合、県職員(森林)との連携   ・農林大学校創立100周年記念事業の総括 ・他県の農業大学との交流  ・DX活用による効果的な学習の実践 ・ICTを生かした新たな授業方法の展開 ・Webによる発表会や就職試験等への対応強化   ・農林大PDCAの実践	①高崎市芝桜公園にパンジー苗を提供(10/31) 箕輪城まつりに参加(10/29:学生及び職員15名) ②箕輪小学校で花づくり講習(10/20) 箕郷学校給食センターへキャベツ等の納入(4月～) ③ぐんま青空マルシェ参加(7/9、12/10) ④子ども食堂へ食材の提供 35回 ・4月から週1回のペースで学生が果樹園内の害虫発生状況を調査し、農業技術センターに報告 ・イノベーションファーム 農業者等視察受入(10回:205名) 農業技術センターとの連携試験として「バラの日射比例給液方法の検討」において、農林大は毎日調査、農業技術センターは週に一回来校し調査と情報交換を行っている イチゴ栽培では次年度新品种試験栽培の予定であり、双方の情報共有の場をチャットに開設。農業技術センター開発の群馬県版更新型つる下ろし整枝法をフォローアップセミナーで研修(11/16:職員2名) ・西部管内普及指導課との連携によるイチゴ、露地ナスの栽培検討会 ・西部若手研修会の受け入れ(1/26:53名)   ・県立学校公仕研修会の受入れ(8/3:40名) ・令和5年度関東ブロック農業教育施設協議会にて意見交換(6/23:校長、教務係長 新潟県三条市) ・JA教育研究会で高校と情報共有(1/25) ・就農者育成推進連絡協議会で情報共有(1/26) ・伐倒練習機を活用した林業労働安全研修(森林組合連合会主催)の受入れ(4月12日間、2月6日間) ・ドローン操作研修(11/16:森林コース2年生12名 県新採職員(森林)13名)(再掲) ・林業振興課による高度機械化研修(ワイヤーブライス)(1/18、19) ・100周年記念寄贈車両受納式・記念植樹式(6/15) ・群馬県主催による4県スポーツ大会(10/13 高崎市金古運動広場 軟式野球場および浜川体育館) ・4年度から教育棟教室でWi-Fi環境が整ったことから、インターネットを活用した授業、説明会、講演会を進めている 関東ブロックプロジェクト発表会オンライン配信を学生、教員が試聴(1/18、19)(再掲) 家族経営における畜産DX推進事業における全国シンポジウム(1/29:酪肉コース2年生視聴)等 ・農林大スタジオを利用した、WEBによる会社説明会、面接対応 ・農林大PDCAの実践 本校で実施している主要なイベントをより良いものとするために、農林大PDCAにおいて開催後の反省、意見出し、それに対する改善策の検討などを行うための手順を整理した		・次年度も地域との交流事業を継続  ・病虫害発生調査の連携  ・県内施設園芸農家への情報提供の場、および入学希望者へ農林大の魅力を伝える施設として、引き続き積極的な視察対応を行う 視察受け入れの継続 ・バラについては農業技術センターとの連携を継続 ・イチゴ新品种について農業技術センターと共同研究の検討(再掲)、プロジェクトでは、やよいひめの適正な栽培条件の検討 ・西部管内普及指導課との果菜類等の検討の連携  ・県立学校公仕研修会の受入れ(8/1) ・継続して教育関係機関と連携し、農林大のPRや情報収集を行う  ・継続して森林組合、県職員(森林)との連携事業を実施  ・4県スポーツ大会(10/11 埼玉)  ・DX化に対応した人材育成を進める  ・継続して農林大PDCAを実践し、イベントをより良いものにしていく	

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
1	質の高い教育の実行	(数値目標と評価)	・教育環境の充実	・寮における学習環境の改善 ・キャンパスの環境美化 ・実習等におけるリスク管理意識の向上	・寮内でのWi-Fiの活用 ・全校学生による定期的な環境整備を継続 ・GAPの講義において、学生が座学、また実習現場に赴き農作業中のリスクを確認した(6/6、7/13：農食コース2年 22名) 林業労働安全リスクアセスメントの講義(12/11：森林コース1年 12名)(再掲)		・継続して寮内の学習環境の改善に取り組む ・計画的に校内美化、花壇の整備を行う ・継続してリスクを減らす取り組みを行う	
				◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上	前期 「おおむね満足」以上 85%(昨年前期94%) 後期 「おおむね満足」以上 92%(昨年後期71%)	A	・後期で昨年より向上した理由は？ (田部井) →授業アンケートの学生の意見が反映されて改善されていと考えられます	
				◎学生の「有機農業論」授業理解度評価 「おおむね理解」以上 80%以上	「おおむね理解」以上 78%	B	・内容量に比べ評価項目が少ないので増やすとよい(澁谷)	
				◎課題研究・意見発表で全国大会出場 1名以上	関東ブロックプロジェクト発表会優良賞1名	D	→「新任指導員全員の指導の実施」など評価項目を加えます	
2	実績の上がる学生募集の実行	1 少子化により減少傾向であった入校生も、HPの更新や学生募集の強化、PRにより昨年までは8割程度を確保していた。しかし、本年度は6割程度に減少し、農業や農林大の魅力を広く知らせる必要がある。(平成31年度86名、令和2年度83名、令和3年度78人、令和4年度82名、令和5年度59名：定員100名)  2 近年の入校生の状況では、非農家出身者が増加(令和5年度入校生：80%)している。女子学生の入校生に占める割合は、令和5年度は22%(令和4年度28%)であった。 *比率は社会人コースを除く  3 本校入校生の約6割が農業高校出身者(令和5年度入校生：59%)であり、農業高校との連携とともに、普通高校へのPRが重要となっている。  4 新型コロナウイルスの行動制限も緩和されつつあり、PRも徐々に元に戻していく。	・農林大学校のPR	・学生参加型のオープンキャンパスの開催(7月26日、8月8日、9月2日)  ・県内高校への学生募集訪問 幹部職員等による学校訪問(7月・9月) 全職員による中堅進学学校訪問(前期及び後期)  ・職員派遣講義による高・大連携の強化 ・連携会議等を通じた情報交換 農業高校の担任等へのPR強化  ・情報発信の強化 学校案内やホームページによるPR (動画の導入、スマホ対応型への移行)	・学生と職員による実行委員会の設置 ・学生が中心となったオープンキャンパスの開催(ガイダンス・トラクタ・校内見学・相談コーナー・コース体験)(7月26日：46名、8月8日：46名) ・職員対応のオープンキャンパス開催(9月2日：19名) 計111名 ・7月に、農業系高校10校(幹部職員)、中堅進学高校等46校(全職員)を訪問。書類送付のみが22校。 ・9月に、農業系高校10校(幹部職員)、中堅進学高校等16校(職員)を訪問。 ・12月に、農業系高校および、オープンキャンパスに参加したが受験していない学生の学校15校を幹部職員が訪問 ・高校等進路説明会参加(24回) 吉井(4/18) 富実(5/25) 藤北(5/26) 下仁田(5/26) 勢多農(6/13) 藤北(6/13) 玉村(6/22) 長野原(6/23) 樹徳(7/19) 藤北(7/25) 勢多農(9/14) 新田(9/19) 吉井(9/20) 前工(11/7) 安総(12/5) 大泉(12/6) 吾中(12/13) 富実(1・24) 太田フレックス(1/24) 富実(3/8) 大間々(3/12) 榛名(3/13) 新島(3/15) 勢多農(3/21) ・職員派遣講義 大泉(5/29) 富実(1/24) 勢多農(3/21) ・令和5年度第1回群馬県公立高等学校等キャリア教育、進路指導研究協議会にて、教授が農林大をPR(5/16) ・群馬県高等学校定例校長会にて、本校長が農林大をPR(6/7) ・進学相談会に教授が参加(12/21 渋川市民会館) ・JA教育研究会で高校と情報共有(1/25)(再掲) ・就農者育成推進連絡協議会で情報共有(1/26)(再掲) ・学校案内を3,500部作製し、順次配布 ・ホームページはモバイル対応となり、更新104回、有機農業コースのトピックスでは毎回動画で実習内容やほ場の様子を紹介 アクセス数は毎月2000~5000、農政部の中では常にトップ3に入り、1位の月が4回あった ・研修部有機農業コースの授業開始時に、研修生、普及員に対し学生募集とオープンキャンパスの告知(6/29) ・イオン販売会(6/24、10/12、12/8)、箕輪城まつり(10/29)、榛の木祭(11/11)で学校案内配布 ・ぐんま広報、群馬テレビ、エフエム群馬を活用した入校試験の周知	・学生主体の魅力あるオープンキャンパスの開催  ・継続して個別見学受け入れ  ・高校訪問、派遣講義を計画的に実施  ・継続して教育関係機関と連携し、農林大のPRや情報収集を行う  ・学校案内で、QRコードを導入し各コースや学校施設を動画で紹介、ホームページも動画を積極的に取り入れ、高校生等に興味を持ってもらえる情報発信の取り組みを行う 学校案内は、関東の農業系高校まで範囲を広げて配布を予定 ・イベント等でPR	・学校案内を現状より増刷し、①大規模農業経営している卒業生に配ってもらう ②カインズ、東京のスーパーなど異業種に置かせてもらう、などの新たな配布先が考えられる(山村) →配布先は、新たに関東の農業高校を検討しています さらに新たな配布先を開拓していきます ・経費の安さをもっとアピールすべきである(森村、山村、中嶋) ・学生に動画などでもっと農林大のよさをPRしてもらうとよい(山村)。 →動画は、人物の撮影許可など制限があり、学生に任せるのは難しい部分があります	

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見				
2	実績の上がる学生募集の実行		・農林大学のPR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーションファームの活用 (最新技術が学べる施設のPR)</li> <li>・全寮制に対する不安解消 在校生から寮生活の楽しさを伝える (学生メッセージを送付)</li> <li>・連携会議等を通じた情報交換 農業高校の担任等へのPR強化</li> <li>・学校見学会の積極的な受入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーションファーム視察のうち、高校生、高校教員(4回、120名)</li> <li>・オープンキャンパスで学生が説明(7/26、8/8)</li> <li>・新2年生の在寮希望率(83%)の高さを発信していく</li> <li>・高等学校職員による農林大見学研修会(6/29:16校 高校教員19名)</li> <li>・農業高校との連携事業(7/7:境総合文化センター 学生20名)</li> <li>・学校教育と行政との連絡会議(7/31:8校 16名)</li> <li>・高校生のための農林業チャレンジセミナー(12/8:勢多農)</li> <li>・課題研究合同発表会(2/6:勢多農 野菜コース2年生1名発表)</li> <li>・農林大見学:安中総合学園高等学校(6/22:総合学科生物資源系列2年38名)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーションファームについては、県内施設園芸農家への情報提供の場、および入学希望者へ農林大の魅力伝える施設として、引き続き積極的な視察対応を行う(再掲)</li> <li>・継続して寮の良さを発信する</li> <li>・研修会、農林大の見学会など継続して行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の全寮制をやめたり、場合により一人部屋を認めたり、寮の老朽化が改善されるとよい(中嶋)</li> <li>→予算の問題がありますが、今後の検討課題と考えています</li> <li>・東京など都会で農業をやりたい若者はいるので、そちらに向けた情報発信が必要(山村、澁谷)</li> <li>→学校案内を関東の農業学校にも配布していきます</li> <li>・農業人口の増加のために、社会人コースは重要であり、定員の拡充はあるか?社会人コースの学生は寮に入れるか?(山村)</li> <li>→定員は今後の検討課題です 寮には入れません</li> </ul>				
									(数値目標と評価)	◎オープンキャンパス 参加者数 実参加者120名 参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上80%以上	◎オープンキャンパス 参加者数 実参加者111名(93%) 参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上96%(120%)	A
									◎高校訪問 56校 2回実施	◎高校訪問 のべ97校(1回目56校、2回目26校、3回目15校)	A	
									◎HPの更新回数 100回以上 動画の配信 10回	◎HPの更新回数 109回(109%) 動画の配信 14回(140%)	A	
									◎入校生の確保 80名以上	◎60名入校予定(75%)	C	
3	実績の上がる進路指導の実行	<p>1 令和4年度卒業生71人の進路決定率は99%で、内訳として、雇用を含んだ就農が25人(35%:前年34%)、JA等農林業関係団体14人(20%:同18%)、民間企業が21人(30%:同30%)、公務員合格者8人(11%:同16%)、進学1人(1%:同3%)その他1人(1%)だった。</p> <p>2 森林コースを除く就農率は、令和元年度に26%と低かったもののその後増加し、令和4年度は、42%まで回復した。なお、就農のうち雇用就農が占める割合は、令和4年度では84%である。</p> <p>3 経営者としての能力を高めるため、社会に出て経験を積んだ後に就農する学生もいる。</p> <p>4 近年、林業への就業率は50~60%であり、特に森林組合への就業者は増加しており、林業の担い手として期待されている。</p> <p>5 企業の求人方法、会社説明会、入社試験が、紙、対面、インターネットを利用したものと多様化している。</p>	(1年生)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路方向の決定と進路別指導 個別面談 希望調査</li> <li>・進路ガイダンスによる指導</li> <li>・就農・就業の促進 農林業法人説明会の開催(9月)</li> <li>・社会人としてのマナーアップ講座等の開催(2月)</li> <li>・海外研修への参加誘導</li> <li>・農業次世代人材投資資金(準備型)の活用</li> <li>・緑の青年就業準備給付金の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コースごとに新入生面談を実施(5月)</li> <li>・進路ガイダンス 1回(4月)</li> <li>・コースごとに三者面談を実施(11~12月)</li> <li>・進路希望調査の実施(12月、2月)</li> <li>・キャリアデザインIで進路指導(15回) 進路・ライフプランを考える 作文・スピーチ指導 雇用状況・労務管理 ストレスマネジメントなど</li> <li>・2年生による進路内定者報告会(12/26)、ハローワーク職員による就活セミナー(12/26、2/26)</li> <li>・人事委員会による公務員説明会(2/26)</li> <li>・農林業法人等説明会(県内9社)(9/20:1年生54名と2年生の希望者)</li> <li>・市内紳士服専門店担当者による講義(2/22)</li> <li>・海外留学経験者による説明会(6/28:農業会議 参加者10名)</li> <li>・農業次世代人材投資資金(準備型)校内説明会(4月):受給者 0名</li> <li>・緑の青年就業準備給付金コース内説明会(5月):受給者 0名</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コースごとに新入生面談を実施(5月)</li> <li>・コースごとの三者面談(12~1月)</li> <li>・進路希望調査の実施(12月・2月)</li> <li>・早期の進路指導を継続して実施</li> <li>・農林業法人等説明会(9月)</li> <li>・農業法人等説明会、マナーアップ講座等の計画的な開催</li> <li>・海外留学経験者による説明会(農業会議、留学経験者)</li> <li>・給付金申請支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林業の現状では、農業経営士でも後継者は少なく、従事者数の減少において、農林業に対する根本的な下支えが必要 雇用就農の低賃金も社会問題にするべき(田部井)</li> <li>・若者に魅力のある冒険的なコースの設置もよいのではないか(山村)</li> <li>→学生がどんなものに魅力を感じるか、今後調査していきます</li> </ul>				

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
3	実績の上がる進路指導の実行		(2年生) ・きめ細やかな進路別指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農者、雇用就農者、就業者への支援 農業法人の情報収集と分析指導 就農・就業に向けた学内企業説明会の開催（9月）</li> <li>・関係機関との連携強化（ハローワーク等）</li> <li>・農業法人協会、農業経営士、農村生活アドバイザーとの連携</li> <li>・海外研修への参加誘導</li> <li>・就業後の職場定着に向けた取組 企業説明会、面接等の指導</li> <li>・農業次世代人材投資資金（準備型）の活用</li> <li>・緑の青年就業準備給付金の活用</li> <li>・就職活動状況の把握と支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農支援 農林業法人等説明会(県内9社)（9/20：1年生54名と2年生の希望者)(再掲)</li> <li>・就職支援 ①面接試験対策として、各コース職員および校長、幹部による面接練習を実施（随時） ②キャリアデザインIIにおいて、面接指導 集団面接演習2回、個別面接演習3回</li> <li>・キャリアデザインIIにおいて、ハローワーク講師による指導</li> <li>・ハローワーク職員による職場定着支援セミナー(2/22)</li> <li>・キャリアデザインIIにおいて、農業経営士1名(6/6)、農村生活アドバイザー1名(9/5)による講義</li> <li>・海外留学経験者による説明会(6/28:農業会議 参加者10名)(再掲)を行い、野菜コース1名が米国留学（国際農業者交流協会）</li> <li>・各コースで随時指導</li> <li>・農業次世代人材投資資金（準備型）校内説明会（4月）：受給者0名</li> <li>・緑の青年就業準備給付金 コース内説明会（5月）：受給者1名</li> <li>・隔週開催のコース長会議において、内定状況の把握。</li> <li>・面接試験対策として、各コース職員および校長による面接練習を実施（随時）（再掲）</li> <li>・学生玄関に「就職内定おめでとう」コーナーを設置し、昨年度の実績と比較させることで、就活意欲向上を目指した</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林業法人等説明会(9月)（再掲）</li> <li>・授業のほか、受験者に随時面接指導</li> <li>・ハローワーク等との連携による進路指導</li> <li>・海外留学経験者による説明会（農業会議、留学経験者）</li> <li>・給付金申請支援</li> <li>・内定状況を把握し、結果を張り出す、面接練習の実施など継続して取組む</li> </ul>	
			・専門資格取得教育の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補講の実施 毒物劇物取扱者 危険物取扱者（乙4類） 日本農業技術検定2級 他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用化学II（補講）（4回：7名）</li> <li>・応用化学I（補講）（8回：11名）</li> <li>・毒物劇物取扱者 受験者数7名 合格者1名 合格率14%(前年9%)</li> <li>・危険物取扱者（乙4類） 受験者数10名 合格者数1名 合格率10%（前年24%）</li> <li>・農業技術検定 各コースで補講 受験者数 66名 合格者数 12名 合格率 18%（前年 29%） ※ 3級受験者 6名 合格者4名 合格率 67%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用化学の補講により、毒劇、危険物免許取得の支援を行う</li> <li>・日本農業技術検定については、コースで補講を行う</li> <li>・毒物劇物取扱者、危険物取扱者乙4、狩猟（わな猟）免許等の取得に向け積極的な支援を実施</li> </ul>		
			(数値目標と評価)		<ul style="list-style-type: none"> <li>(2年生)</li> <li>◎進路決定率 100%</li> <li>◎就農率 40%以上</li> <li>◎林業関係の就業率 60%以上</li> <li>◎日本農業技術検定(2級)の資格取得者割合 30%以上</li> <li>◎毒物劇物取扱者合格率 30%以上</li> <li>◎危険物取扱者(乙4類)合格率 30%以上</li> <li>◎農業機械系資格合格率 100%</li> <li>◎狩猟(わな猟)免許合格率 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路内定率 69名中67名内定 97%(3/4) 前年同時期91%(2/10)</li> <li>・就農率 26%(65%)</li> <li>・林業関係の就業率 55%(92%)</li> <li>◎日本農業技術検定(2級)の資格取得者割合 18%(60%)</li> <li>毒物劇物取扱者 14%(47%)</li> <li>危険物取扱者(乙4類) 10%(33%)</li> <li>農業機械系資格(牽引、大型トラクター) 100%(100%)</li> <li>狩猟(わな猟) 受験は3月</li> </ul>	B C B C D D A -	

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見																																																					
4	県民の期待に応えられる研修の実行	<p>1 令和4年度の農業実践学校は、定員数136名、申込者数163名あり、書類選考と面接により134名の入校を決定した。新型コロナウイルス感染症も徐々に落ち着きが見られ、123名が修了した。なお、野菜専門技術課程の修了生は、全員が営農計画を策定し就農することができた。また、修了3年後（令和元年度実践学校各課程修了者）の就農状況は、82%の方が農業に従事している。</p> <p>2 農業機械研修は、大型トラクター免許取得研修、作業機械研修、安全研修等を実施している。そのうち免許取得研修は、新規導入トラクタ-の効率的な運用により、日数を短縮して実施した。なお、道路運送車両法の運用緩和により、免許取得研修の希望者が多くなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修生の確保に向けた取組み</li> <li>ニーズに対応した課程の充実</li> <li>J A等と連携した担い手の育成</li> <li>J A、市町村への実践学校P R</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度から有機農業コースを新設し、定員20名のところ34名の申し込みがあり、25名入校とした</li> <li>就農状況確認を講座修了時と3年後の調査を実施（11月）</li> </ul> <p>R5年度「ぐんま農業実践学校」実績一覧</p> <p style="text-align: right;">単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コース名</th> <th>定員</th> <th>応募者</th> <th>入校者</th> <th>修了者</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>野菜専門技術コース</td> <td>20</td> <td>27</td> <td>21</td> <td>21</td> <td></td> </tr> <tr> <td>野菜基礎技術コース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>（春夏野菜専攻）</td> <td>22</td> <td>48</td> <td>21</td> <td>21</td> <td></td> </tr> <tr> <td>（秋冬野菜専攻）</td> <td>22</td> <td>33</td> <td>23</td> <td>22</td> <td></td> </tr> <tr> <td>有機農業コース</td> <td>20</td> <td>34</td> <td>25</td> <td>23</td> <td></td> </tr> <tr> <td>トラクター操作講座</td> <td>10</td> <td>20</td> <td>14</td> <td>14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>農業体験講座</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>102</td> <td>165</td> <td>107</td> <td>104</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	コース名	定員	応募者	入校者	修了者	備考	野菜専門技術コース	20	27	21	21		野菜基礎技術コース						（春夏野菜専攻）	22	48	21	21		（秋冬野菜専攻）	22	33	23	22		有機農業コース	20	34	25	23		トラクター操作講座	10	20	14	14		農業体験講座	8	3	3	3		合 計	102	165	107	104		<ul style="list-style-type: none"> <li>ぐんま農業実践学校の運営</li> <li>R6度ぐんま農業実践学校の要領を11月に改正し、ポスター、パンフレットを作成して、1月4日～2月5日に募集を行った。</li> <li>イチゴコースの新設（別添パンフレット参照）</li> </ul>	
		コース名	定員	応募者	入校者	修了者	備考																																																						
		野菜専門技術コース	20	27	21	21																																																							
野菜基礎技術コース																																																													
（春夏野菜専攻）	22	48	21	21																																																									
（秋冬野菜専攻）	22	33	23	22																																																									
有機農業コース	20	34	25	23																																																									
トラクター操作講座	10	20	14	14																																																									
農業体験講座	8	3	3	3																																																									
合 計	102	165	107	104																																																									
<p>3 令和4年度の一般県民を対象とした公開講座は、前後期を対象を野菜に絞った1講座を予定していたが、新型コロナウイルス対策の影響で中止となった。下期は、感染状況が落ち着いてきたことから2回開催した。</p> <p>4 令和5年3月に公布された「群馬県みどりの食料システム基本計画」に基づき、県では、持続可能な農業（特に有機栽培）の取組を強化し、有機栽培に取組む生産者の増加を目指すこととした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機栽培のほ場、機械整備</li> <li>有機ほ場は、農地面積62 aを確保し、野菜16品目を栽培予定。令和5年度は、有機栽培ほ場整備、関連機械の購入、パイプハウス3棟を整備予定</li> <li>有機栽培の担い手育成</li> <li>有機農業コースの受講者20名定員のところ25名の入校を決定し、6月から講座を開始した。野菜栽培を11月から開始し、令和6年10月に有機JAS認証取得を見込んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業コースに予定していた機械類は、9月に入札し、順次納入された</li> <li>ぐんま用水引き込み工事を9月に完了した</li> <li>パイプハウス3棟が1/25に完成した。</li> <li>有機農業コースは、6月8日から講座を開始し、16回終了した</li> <li>16品目の野菜（ナス、キュウリ、オクラ、トマト、ジャガイモなど）を有機栽培で実施したが、概ね順調に生育・収穫することができた</li> <li>有機JAS認証審査に向けて、書類等を整理し、10月27日に申請、12月7日に現地審査を実施し、1月29日に有機JAS（転換期間中）の認証を受けることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機JAS認証の継続審査（10月）</li> <li>有機農業コースは、有機JAS認証に基づいた栽培の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業コースのアフターケアは？（田部井）</li> <li>→有機農業コースのアフターケアは、ほぼ行ないませんが、有機農業専攻については、さまざま学生のパターンにあわせて卒業後の就農に結び付く研修先（週1回）を選んでいます</li> <li>・販路探しは大変だが、独自に販路拡大を頑張っている卒業生もいる（森村）</li> <li>・販路については、有機農産物の販売業者などに講義をしてもらおうとよい（澁谷）</li> <li>→本年度も有機農産物を取り扱う電子商取引の経営者の講義をおこないました 次年度も実施できるよう検討します</li> </ul>																																																								
		<ul style="list-style-type: none"> <li>県民ニーズに対応した農業機械研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得</li> <li>新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたことから、免許取得研修の効率化を図り、研修を実施する</li> <li>スマート農業機械を用いた研修</li> <li>農作業安全研修等の実施</li> <li>就農者育成のため、農業事務所、JA等と連携した研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症が5月に5類に引き下げられたことから、班分け研修から従来の全体研修に切り替え実施した。このことにより、大幅に研修効率が上がった</li> <li>下記安全研修やトラクター基礎研修内でスマート農業機械を用いた研修も平行して実施 20回/323人</li> <li>運転免許講習にて安全研修を実施 10回/170人</li> <li>学生、実践学校研修生等に機械安全研修を実施（小型トラクター、刈払機、管理機など） 13回/212人</li> <li>就農者育成研修として実施（農業機械の取扱、メンテナンス、安全講習、耕うん実習など） 6回/78人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も農業機械の安全研修を随時開催予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラクター研修は時間のない人のために、短期間でやっていただけるとありがたい（山村）</li> <li>→安全講習にも時間をかけているので、現状の実施期間となります</li> </ul>																																																							

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見																																													
			・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	・職員の専門性を生かした講座の実施 ・令和5年度は、前期3回（梅加工、草刈り機の安全使用、秋冬野菜づくり）、後期4回（小型管理機操作、春夏野菜づくり、果樹の整枝・せん定、花き栽培を楽しむ）の全7回の講座を予定している	・前期は、3講座を計画し、4月から募集を開始した。 ・後期は、4講座を計画し、8月から募集を開始した。合わせて、市町村、J A、H P等へ募集案内を実施した ・R 6年度公開講座の実施計画（案）を作成 R 5年度「ふれあい講座」実績一覧 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>定員</th> <th>応募者</th> <th>決定者</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手作りを楽しむ梅加工</td> <td>15</td> <td>102</td> <td>20</td> <td>6月20日</td> </tr> <tr> <td>刈払い機の基本操作</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6月29日</td> </tr> <tr> <td>秋冬野菜づくり</td> <td>20</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>7月5日</td> </tr> <tr> <td>小型管理機の基本操作</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>10月12日</td> </tr> <tr> <td>果樹の整枝・せん定</td> <td>10</td> <td>31</td> <td>16</td> <td>2月7日</td> </tr> <tr> <td>春夏野菜づくり</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>2月20日</td> </tr> <tr> <td>花き栽培を楽しむ</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>3月1日</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>100</td> <td>207</td> <td>110</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	講座名	定員	応募者	決定者	開催日	手作りを楽しむ梅加工	15	102	20	6月20日	刈払い機の基本操作	10	6	6	6月29日	秋冬野菜づくり	20	27	27	7月5日	小型管理機の基本操作	10	12	12	10月12日	果樹の整枝・せん定	10	31	16	2月7日	春夏野菜づくり	20	20	20	2月20日	花き栽培を楽しむ	15	9	9	3月1日	合 計	100	207	110		・前期は、4講座（梅加工、刈払い機の基本操作、秋冬野菜づくり、キュウリナスの管理）を開催予定 ・後期は、4講座（小型管理機の基本操作、果樹の整枝・せん定、春夏野菜づくり、花き栽培を楽しむ）を開催予定		
講座名	定員	応募者	決定者	開催日																																																	
手作りを楽しむ梅加工	15	102	20	6月20日																																																	
刈払い機の基本操作	10	6	6	6月29日																																																	
秋冬野菜づくり	20	27	27	7月5日																																																	
小型管理機の基本操作	10	12	12	10月12日																																																	
果樹の整枝・せん定	10	31	16	2月7日																																																	
春夏野菜づくり	20	20	20	2月20日																																																	
花き栽培を楽しむ	15	9	9	3月1日																																																	
合 計	100	207	110																																																		
4	県民の期待に応えられる研修の実行	(数値目標と評価)	◎実践学校研修生の定員確保率 100%	◎実践学校修了時の就農率 実践学校全体 90% 野菜専門技術コース 100%	◎実践学校修了3年後の農業従事率 80%	◎大型特殊自動車免許等取得 合格率 100%	◎スマート農業機械研修の開催回数と受講者数 17回/188名	◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数 20回/200名	◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上	・定員確保率100%、申込者166名のうち107名（定員102名）が入校した A	・令和6年度の募集は、令和6年1月4日～2月5日に実施した B	・令和6年11月に調査予定 B	・大型トラクターけん引研修開催（2回）、大型トラクター基礎研修開催（9回）開催予定 A																																								
					実践学校全体83%（野菜専門コース90%有機農業コース91%、春夏コース85%、秋冬コース66%） B	コース全体 77% 内訳（専門就農67%、秋冬野菜（平日）64%、秋冬（日曜）100%） B	大型トラクターけん引研修開催（3回/3回）、大型トラクター基礎研修開催（10回/10回） 合格率100%/3月末 A	受講者数 21回/292名/2月末 A	受講者数 25回/327名/2月末 A	受講者数 7回/110名/2月末 満足度95%/2月末 A																																											